

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』
◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

第10号 令和3年12月24日発行

simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

親心を生きる力に



校長 堀田 稔

11月下旬から12月上旬の冷え込んだ日の登校の様子をみていると、凍った水たまりに一直線に進み、滑ったり、氷を割ったり。歩道ではなく霜の降りた草の上を歩き、足跡をつけるなど、身の回りの自然やもの等、なんにでも興味関心を示す子ども達を見て、この姿勢が薄れないでほしいと思いながら、日々朝の挨拶を交わしています。

深い親心の寅年

来年は「寅年」です。「虎は千里行って千里帰る」という「ことわざ」があります。虎が1日で千里を往復できるということから、優れた行動力や勢いを意味することが多いのですが、単独で狩りを行う母親が巣穴に残した子どもの元へ千里の道でも帰るといふ母の深い親心を表す場合もあります。

この「ことわざ」では母親の親心のことを言っていますが、現代では父親はもちろんのこと、教師を含め子ども達の周りにいて、関わっている大人すべて、子ども達を愛し将来を思う人々の親心のことだと感じています。

去年の12月のおたよりでも紹介させていただきましたが、ヘリコプターペアレンツのように、子どもの周りをぐるぐる回り、ただ単に子ども達の言葉だけを信じ、自分が手や口を出しすぎて過干渉・過保護でいることは、今まで出会った子ども達の成長の事例を見ていると、興味関心を薄れさせ、自信を持つように育っていないのではないかと感じています。

成長していく中で人間関係（友達関係）や親子関係が良好に持続できるように、そして自らの力でたくましく生きていくための「生きる力」を育むための親心とは何か。大切なことは適度な干渉と放任の度合いを見極めること、どんな状況でもその状況を言い訳には使わないこと、善悪はしっかり教え、自分で考え行動するように促しながら、自信がつくように接していくことが、数多くある親心の中でも大切な部分ではないかと考えています。

ヘリコプター ペアレンツ、この言葉ご存知ですか（最近だとドローンペアレンツ?）

○学業で子どもの失敗を防ぐことが、人生に備えるための、最善策だ。

○何が何でも、失敗は避けるべきだと思う。

○失敗してつらい思いをしないよう、失敗を防いでやるのが親の仕事だと思う。

○子どもが失敗したら、すぐに正しいやり方を教えないといけないと思う。

と考え、子どもの周りをぐるぐる回り、自分が手や口を出しすぎて過干渉・過保護でいることに気が付かずにいることから、この名前がつけられているそうです。

良いお年をお迎えください

「寅」は蟻（ミミズ）に通じ春の草木が生ずることから、厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージであると言われ、前向きな姿勢で物事が進む「寅年」です。

来年も子ども達が興味関心を持ち続けながら自分の将来を考え、努力を重ね、学んだことを自分の力として生かしながら成長し続けることを願っています。

令和3年の清水小学校へのご理解、ご支援、ご協力に心より感謝申し上げますとともに令和4年も同様に、ご参画をよろしくお願い申し上げます。

皆様がより良い年をお迎えしますことを心より祈念申し上げます。

そして、この冬休みの様々な出来事等を通して興味関心を大切に、親心と周りの大人の深い愛情が子ども達に伝わり、始業式には子どもたち全員が笑顔いっぱい登校してくれることを願っています。